

祭のあくる日

金子みすゞ

きのう、神輿みこしのにぎわいに、
つい、浮かされて残ったが、
昨夜は遠いお囃子はやしに、
芝居の夢をみていたが、
さめてかあさん呼んだとき、
みんなに、みんなで、笑われて、
そつとでてみた、裏山うらやまの、
おいてけぼりのお月さま。

楽しいお祭り。にぎやかなお祭りが終わった翌日に残る静けさ。
この詩では、終わった後の空気、心の動きに注目することができます。
みすゞさんの本当の想いはわかりませんが……

にぎやかさのあとには淋しさや静けさがある、けれども、祭りの余韻を大切に
しつつ、日常への戻りがあるものです。
「祭りのあと」はそういうものでしょうか……



先日、桑田佳祐さんの「夏祭り」コンサートに行ってきました。
アンコールの一番最後は「祭りのあと」という曲でした。
正しくそのコンサートが終わったあとは楽しかった想いと終わってしまったという淋しい想いでしたが、
「家に帰るまではコンサート」と桑田さんが言っていたことを思い、家路につきました。
非日常から元気をもらって余韻を楽しみながら、日常へ戻りました。

計画をして、たくさん準備をして、本番。 本番はあっという間に終わってしまうものです。
それが、成功で終わっても、失敗であっても、本番は一回。
成功したあとは達成感、充実感に満たされますが、失敗したあとは、後悔が残ることもあるでしょう。
人生の中でそういうことは何度か味わいます。
でも、本番までに費やした時間は決して無駄にはならず、大切な時間の中で、思い返した時に、いつか
いい時間だったと思えるのではないのでしょうか。

もうすぐ運動会。
子どもたちは毎日その学年らしく運動会ごっこをして過ごしています。
精一杯活動して、本当の日を迎えます。
その間にはさまざまな感情を味わうことでしょう。
当日までの経過、そして、当日、それから余韻を大切に日々を過ごしたいと思います。
そして全力で活動して、勝っても負けても楽しかった……という気持ちを持つことができればいいなと
思います。
運動会だけではなく、いろいろなことに言えることではないのでしょうか。